

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒を自立した社会人として送り出すために、社会人としての必要な力を養うとともに、社会に主体的に参画できる人材の育成をめざす。 1.【学ぶ】:「ゆっくりじっくり学べる教育」を実践し、基礎学力の向上を図る。 2.【つながる】:個々の生徒に寄り添い、自己肯定感や豊かな人間性を育むとともに、学校が居場所となるように努める。 3.【挑戦する】:夢を実現させるためのキャリア教育を推進する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成 (1) 社会に必要な基礎的な知識・技能の定着を図り、社会人としての常識を身につける ア 生徒の学力に応じた教育内容を設定し、学ぼうとする意欲、学び続ける姿勢を醸成し、基礎学力の向上など、確かな学力を身につけさせる。 (授業アンケート「生徒理解」 令和8年度 90%以上を維持する) ※ (R3 : 85.8% R4 : 89.0% R5 : 92.7%) イ 主体的・対話的な深い学びのある授業へと授業改善を推進し、授業力の向上を図る。 ウ 観点別評価を充実させるとともに、1人1台端末を活用した個別最適な学びのある授業方法を研究し、実践に取り組む。 (生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすい」の項目の肯定率を令和8年度 90%以上を維持する) ※ (R3 : 88.1% R4 : 78.4% R5 : 95.7%) (2) 思考力・判断力・表現力を育成することにより、集団において適切な意見を述べ、行動できる力の育成を図る。 ア 総探PTを中心に充実した「総合的な探究の時間」の実施により、課題対応能力や人間関係形成能力の育成を図る。 (生徒向け学校教育自己診断「授業で発表したりすることがある」の項目の肯定率を令和8年度 85%以上にする) ※ (R3 : 78.5% R4 : 60.0% R5 : 78.3%) (3) 自ら主体的に学ぶ姿勢の育成 ア 「学習環境」の確保のために授業規律の確立を図る。 (生徒向け学校教育自己診断「授業規律」の項目の肯定率を令和8年度 90%以上にする) ※ (R3 : 73.9% R4 : 76.9% R5 : 86.4%) イ 授業やLHR活動などすべての教育活動を通して、「なぜ学ぶのか」について考えさせることにより、生徒の職業観・勤労観の育成につなげる。
2 豊かな人間性と「社会の一員」としての自覚の醸成 (1) 自己および他者への理解と自己有用感の育成 ア 特別活動や学校行事の充実を通して、自己有用感を育成し、コミュニケーション力を向上させ、集団の中で協力しながら活動できる力を育成する。 イ 生徒の自主的な活動である部活動や生徒会活動の活性化に努める。 (教員向け学校教育診断「生徒会活動支援」の項目の肯定率を令和8年度 90%以上にする) ※ (R3 : 88.9% R4 : 83.3% R5 : 88.2%) ウ あいさつ運動やボランティアの取組みにより、生徒の人間関係形成能力を養う。 (2) 規範意識の醸成と自己管理能力の育成 ア 規律ある学校生活を通して、基本的な生活習慣の確立をめざす。(年間の生徒登校率を、令和8年度まで 90%以上を維持する。) ※ (R3 : 88.0% R4 : 93.5% R5 : 94.5%) イ 社会の一員として求められる政治的教養や判断力を計画的に育成する。 (3) キャリアプランニング能力の育成 ア 1年次より計画的・系統的にキャリア教育を行うことで、自己実現の意欲を喚起し、進学・就職を希望する生徒の進路決定率 100%をめざす。 (進路決定率 令和8年度 90%以上にする。) ※ (R3 : 76.5% R4 : 86.7% R5 : 85.7%) イ 就業体験や応募前職場見学等の様々な体験活動を通して、生徒一人ひとりの職業観・勤労観の形成を図る。 (生徒向け学校教育自己診断「進路や生き方について考える」の項目の肯定率を令和8年度 90%以上にする) ※ (R3 : 90.5% R4 : 84.4% R5 : 82.9%)
3 生徒支援と安全安心な学校づくり (1) 生徒の個に応じた支援と、生徒が自分らしく安心して通える学校づくり ア 人権教育を推進し、様々な人権課題の解決に取り組む。 (生徒向け学校教育自己診断「人権意識について高まる」の項目の肯定率を令和8年度 90%以上を維持する) ※ (R3 : 84.6% R4 : 82.4% R5 : 90.7%) イ SC や SSW の活用を推進し教育相談体制を充実させ、生徒の「居場所づくり」を進めるとともに、合理的配慮にもとづき、「ともに学び、ともに育つ」学校づくりをめざす。 ウ 支援コーディネーターを中心に、担任、養護教諭と連携し、生徒の特性に応じた効果的な指導、支援を行い、中退や不登校の減少に取り組む。 ※「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、文部科学省が公表した令和3年度全国公立高等学校定時制課程の中途退学率 6.9%以下をめざす。(R3 : 7.4% R4 : 17.8% R5 : 14.7%) (2) 安全安心な学校 ア 学校全体として健康安全教育や交通安全教育を推進し、生徒および教職員の健康増進と安全確保を推進する。 イ 全教職員が一致した協力体制を構築し、問題事象等には、迅速で適切な対応を図る。 ウ 定時制の現状に即した防災教育を実践し、災害に備えた危機管理体制を確立する。 (3) 教育活動の広報

ア 家庭や地域の中学校等との連携を推進し、情報発信を積極的に行い、開かれた学校づくりに努める。 （保護者向け学校教育診断「学校や進路指導についての情報提供」の項目の肯定率を令和８年度 90％以上を維持する） ※（R３：93.3％ R４：93.8％ R５：91.3％）
4 学校運営体制の改善と人材育成
（１）教職員の学校運営への参画意識の醸成
ア 企画会議及び運営委員会を学校運営の核として位置づけ、学校運営の確実な定着をめざす。
イ 各学年・分掌・委員会が計画的に業務を運営するとともに、各組織間の連携を密にし校務の効率化を図る。
（教員向け学校教育診断「各分掌や各学年間の連携」の項目の肯定率を令和８年度 90％以上にする）※（R３：27.8％ R４：55.6％ R５：82.4％）
ウ 首席を中心に OJT や研修を通じて経験年数の少ない教員やミドルリーダーの育成に取り組み、学校運営への参画意識の醸成を図る。
エ 各種ハラスメントの防止に対する意識の啓発を行う。
（２）学び続ける教員集団の形成
ア 教職経験年数の少ない教員を対象とした校内研修「若手教師塾」の実施や教員の自主研修を奨励し、人材の育成を図る。
イ 現場のニーズに即した校内研修を計画的に行うことにより、教員力の向上を図る。
（教員向け学校教育診断「校内研修の計画的な実施」の項目の肯定率を令和８年度 80％以上にする）※（R３：61.1％ R４：66.7％ R５：70.6％）
（３）働き方改革
ア 働き方改革への積極的な取組みにより、教職員の時間外勤務の軽減を図る。
イ 校内ネットワークを含めた ICT 活用を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
すべての質問において、肯定率 60％未満の回答はなく、生徒・保護者・教員の肯定率平均はすべて 80％を超えている。（ ）は昨年度の肯定率。 【生徒】 肯定率平均 88.8％（87.4％） 「学校へ行くのが楽しい」78.8％（72.7％）の質問以外は肯定率 80％を超えている。特に「授業はわかりやすい」「授業中は学習できる雰囲気が保たれている」「学校生活についての先生の指導は納得できる」「将来の進路を考え、一般常識を学ぶ機会がある」「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」については 90％を超えており、非常に高い肯定率である。 【保護者】 肯定率平均 83.3％（87.2％） 「学校は、子どもに『生命を大切にする心』や『社会のルールを守る態度』を育てようとしている」「学校の生徒指導の方針に共感できる」「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば、真剣に対応してくれる」「学校は、保護者からの相談に、適切に応じてくれる」「この学校の授業参観や学校行事に参加した事がある」については 90％を超えており、非常に高い肯定率である。しかしながら「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」の肯定率は 61.5％（70.8％）とやや低く、生徒の回答「学校へ行くのが楽しい」78.8％と差がある。生徒の学校での様子や満足度などを情報提供する方法について検討が必要である。 【教員】 肯定率平均 82.6％（75.4％） 「この学校では、SC、SSW と連携をとり、生徒に寄り添いながら生徒指導を行っている」「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談する事ができる」「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、行事後にアンケートを取り、工夫・改善を行っている」「教育活動に必要な情報について、ホームページ等を活用し、生徒・保護者や地域への周知に努めている」「体罰やセクシュアル・ハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導が行われている」「学校運営に教職員の意見が反映されている」については 90％を超えており、非常に高い肯定率である。しかしながら「人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合っている」「校内研修が教育実践に役立つよう、計画的に実施されている」「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」の 3 項目についてはいずれも 64.7％と若干低い肯定率となっている。教員が互いに情報共有しやすい仕組み作りが必要と思われる。 【肯定的回答率が昨年度と比べて特に（20％以上）上昇した項目】 〔保護者〕 「この学校の授業参観や学校行事に参加した事がある」91.7％（64.0％） 〔教員〕 「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、キャリア教育ときめ細かい指導を行っている」88.2％（64.7％） 「学校運営に准校長のリーダーシップが発揮されている」82.4％（23.5％） 「学校運営に教職員の意見が反映されている」94.1％（47.1％） 「教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」82.4％（58.8％） 「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」64.7％（41.2％） 全体を通して教員の肯定率が平均 7％ほど上昇して 20％以上上昇した項目も多く、改善が見られた。	【第1回 令和6年6月14日（金）】 ・中学校でも布施定時制を勧めている。0 時間目で日本語の授業をさせていただいているのは、布施定くらいなので助かっている。 ・生徒たちの多様性を認めていくことが大切であり、居場所づくりに繋がっていくのではないか。大変良い取り組みだと感じている。 ・生徒たちが、落ち着いた環境で授業に取り組んでいる姿が印象的である。 ・布施定の強みを、もっと発信してもらいたい。 ・何かと課題が多く大変だと思うが、その中で様々な工夫を凝らして、教員が頑張っている。引き続きお願いしたい。 【第2回 令和6年11月8日（金）】 ・授業アンケートの結果、数値が非常に高いのは先生方のがんばりもあるが、生徒が教員を信頼しているからではないか。 ・生徒生活実態アンケートの結果から、楽しく学校に来ている生徒が多いことがよくわかる。しかし、「あまり楽しくない」、「楽しくない」と回答している生徒を今後どう減らしていくかが課題である。 ・生徒が正直にアンケートに答えてくれるのは、学校を信頼している証である。 ・各分掌の資料から、さまざまな学校行事の活動を通じて生徒が成長していることがよくわかる。 ・（保護者の立場から）先生方に対して信頼している。生徒（子ども）がこの学校で自問自答しながら学んでいることがありがたい。また、SC のカウンセリングを生徒（子ども）が受けられてよかった。アンケート等の数値だけでは測れないものがあると思う。 【第3回 令和7年1月24日（金）】 ・授業アンケートや学校教育自己診断の結果より、学校が年々良い方向に向かっていることが読み取れる。 ・授業アンケートにおいて、授業の内容に興味関心を持つことができたと感じている肯定率が高いことにとても感心した。 ・来年度「進路校外学習」を導入していただけるのは保護者として非常に有り難い。 ・就職先を検討するにあたり、東大阪市や八尾市の中小企業を訪問するなど、ものづくりを見学できる取組みを検討されてはどうか。 ・0 限目授業の日本語指導はとても評価している。外国籍の生徒が増加している現状を考えると、十分な支援が継続できるかが今後の課題である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 確 か な 学 力 の 育 成	(1) 基礎的な知識・技能の定着を図り、社会人としての常識を身につける ア 基礎学力の向上	(1) ア・年度当初に本校独自の「学力診断テスト」を実施することで生徒の学力を把握し、ゼロ時限などの活用により基礎学力の底上げを図る。 ・少人数展開・TTなどの授業を継続し、生徒の個々の状況に応じた学習を支援する。 ・支援コーディネーターと教務部が連携し、到達度の低い生徒に対する学習指導を計画し、わからないことを先生に質問しやすい環境をつくる。	(1) ア・教職員学校教育自己診断 「到達度の低い生徒に対する学習指導」肯定率 72%以上 [70.6%] ・授業アンケート 「知識・技能が身についた」肯定率 85%以上維持 [89.1%] ・生徒学校教育自己診断 「授業でわからないことについて先生に質問しやすい」肯定率 80%以上維持 [83.0%]	「到達度の低い生徒に対する学習指導」肯定率 76.5% (○) 「知識・技能が身についた」肯定率 88.2% (○) 「授業でわからないことについて先生に質問しやすい」肯定率 89.3% (○) 人数展開・TTにより、生徒の満足度は非常に高い。
	イ 授業力の向上	イ・生徒が興味・関心を持ち、積極的に対話や思考ができる授業づくりを推進し「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。 ・授業の初めに「ねらい」を提示し、終わりに「振り返り」を行う等、ユニバーサルデザインの視点を取り入れたわかりやすい授業をめざす。 ・テーマを絞った公開研究授業や校内研修を実施し、個々の教員の授業力の向上を図る。 ・他校の研修へ積極的に参加する。	イ・授業アンケート「生徒理解」肯定率 90%以上維持 [92.7%] ・生徒学校教育自己診断 「授業はわかりやすい」肯定率 90%以上維持 [95.7%] ・授業公開期間 2 回（新規） ・他校の研修へ参加 7 人以上 [14 人]	「先生の授業のスピードやレベルは自分にとってちょうどよい（生徒理解）」肯定率 89.2%であり、90%は達成できなかったが高い肯定率を維持できている (○) 「授業はわかりやすい」肯定率 96.4% (◎) 授業公開 2 回 (○) 他校の研修参加のべ 7 人 (○) 授業力向上委員会の継続した取り組み（授業見学会、他校との授業交流会）を中心に授業改善の意識を高めてきた結果と言える。
	ウ 観点別評価の充実と 1 人 1 台端末の活用	ウ・GIGA スクール推進委員会を中心に、ICT 活用指導力を向上させるために校内研修を実施し、「1 人 1 台端末」の活用について研究・実践を進める。 ・教務部とカリキュラム委員会が連携し、各教科の「観点別評価」の実施状況を確認し、課題の解決を図る。	ウ・生徒学校教育自己診断 「1 人 1 台端末の効果的活用」肯定率 90%以上維持 [93.3%] ・ICT 活用研修 1 回以上 ・観点別評価を検証する研修 1 回以上	「1 人 1 台端末の効果的活用」肯定率 89.1%であり、90%は達成できなかったが高い肯定率を維持できている (○) ICT 活用研修 1 回 (○) 観点別評価を検証する研修 1 回 (○)
	(2) 集団において適切な意見を述べ、行動できるようになる ア 課題対応能力や人間関係形成能力の育成	(2) ア・総合的な探究の時間については、4 年間（3 年間）を視野に入れた系統的な計画の作成を行い、課題を発見していく能力やコミュニケーション能力を育む。 ・全校での発表会を継続する。 ・授業中の発表やグループ学習の機会を設け、意見交換の重要性や他者と協同する態度を育成する。	(2) ア・生徒学校教育自己診断 「授業で発表する」肯定率 80%以上 [78.3%]	「授業で発表する」肯定率 86.0% (○) 12 月には代表生徒が全校生徒の前で発表を行った。
	(3) 自ら主体的に学ぶ姿勢の育成 ア 学習環境の確保のための授業規律の確立	(3) ア・授業中のスマートフォンの使用や私語、飲食などの指導について全教員の共通理解を深め、統一した指導を行う。 ・年度当初にオリエンテーション期間を設け、学校におけるルールや部活動の在り方等について丁寧に説明する。	(3) ア・生徒学校教育自己診断 「授業規律」肯定率 85%以上維持 [86.4%]	「授業規律」肯定率 90.9% (◎) 教員による日々の丁寧な声かけにより、規律が保たれている。

府立布施高等学校 定時制の課程

2 豊かな人間性と「社会の一員」としての自覚の醸成	(1) 自己および他者への理解と自己有用感の育成 ア 特別活動、学校行事の充実	(1) ア・様々な学校行事を通して仲間意識を育み、学校への帰属意識を高める。 ・学校行事やLHR、総合的な探究の時間において生徒に役割を持たせるなど、自己有用感を育む機会を積極的に作る。	(1) ア・生徒学校教育自己診断「行事が工夫されている」肯定率を90%以上維持 [93.3%] ・生徒学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」肯定率75%以上[72.7%]	「行事が工夫されている」肯定率89.3%であり、90%は達成できなかったが高い肯定率を維持できている (○)
	イ 生徒会活動、部活動などの活性化と生徒が主体となる活動の支援	イ・部活動が居場所となるよう活動日の確保や体験入部の実施等の取組みを行うとともに、各集会にて部活動の紹介などを実施する。 ・生徒秋季発表大会への参加を積極的に促す。 ・HP や准校長ブログなどを利用して生徒会や部活動の活動状況を積極的に発信し、生徒会や部活動への参加啓発を促す。	イ・部活動の加入率60%以上維持 [66.0%] ・教職員学校教育自己診断「部活動の活性化」肯定率85%以上維持 [88.2%] ・生徒秋季発表大会への参加10人以上[17人] ・教職員学校教育自己診断「生徒会活動を通して主体的に活動できるよう学校全体で支援」肯定率85%以上維持 [88.2%]	「学校へ行くのが楽しい」肯定率78.8% (○) 得意でないことや未経験のことでも生徒は自分なりに精一杯努力し、学校を楽しんでいる。 部活動の加入率56.9% (△) 「部活動の活性化」肯定率88.2% (○)
	ウ あいさつ運動等による人間関係形成能力の育成	ウ・校内において、教員が挨拶を励行することにより生徒に挨拶の習慣付けを行うとともにあいさつ運動やボランティア清掃の取組みを継続して行う。	ウ・あいさつ運動・ボランティア清掃 (各1回以上) [各2回]	生徒秋季発表大会への参加14人 (◎) 生活体験発表、作品展示 (書道、絵画) にエントリーし、作品の一つは大阪府知事賞を受賞した。 「生徒会活動を通して主体的に活動できるよう学校全体で支援」肯定率88.2% (○)
	(2) 規範意識の醸成と自己管理能力の育成 ア 学校の教育活動を通しての規範意識の醸成と基本的な生活習慣の確立	(2) ア・教員が連携し、学校のすべての教育活動を通した規範意識の醸成を図る。 ・欠席・遅刻・早退・欠課 (中抜け) の防止。 ・キャンペーン等を実施し、生徒の規範意識を醸成する。	(2) ア・教職員学校教育自己診断「キャリア教育推進のため、教育活動全般にわたり、生徒の規範意識の醸成に取り組んでいる」肯定率72%以上 [70.6%]	あいさつ運動・ボランティア清掃各1回 行事を見直し、あいさつ運動やボランティア清掃は実施していないが、教員は毎日生徒の登校時に生徒を出迎え、個々の状況を把握し、指導や支援を行っている。(○)
	イ 社会の一員として求められる政治的教養や判断力の育成	イ・地歴公民科の授業だけでなく、教育活動全般において 政治的教養や社会の一員として求められる判断力について育成を図る。	イ・教職員学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ」肯定率85%以上維持 [88.2%]	「キャリア教育推進のため、教育活動全般にわたり、生徒の規範意識の醸成に取り組んでいる」肯定率70.6% (△)
	(3) キャリアプランニング能力の育成 ア 全学年を通しての計画的なキャリア教育による職業観・勤労観の確立 イ 就業体験などによる職業観・勤労観の形成	(3) ア・進路HRの時間を確保し、4年間(3年間)の系統的な進路指導の計画を見直す。 ・外部人材を招いたガイダンスや研修を通じて、勤労観、職業観の向上をめざす。 ・進学・就職希望者に対する進路指導の早期からの充実を図るとともに、ハローワークや外部機関との連携を行い、希望者の卒業時の進路決定率を高める。 イ・アルバイト指導やインターンシップなどの就業体験を通して、就職希望者の進路選択の機会を増やす。	(3) ア・生徒学校教育自己診断「進路や生き方について考える機会がある」肯定率80%以上維持 [82.9%] ・教職員学校教育自己診断「勤労観・職業観を持つ系統的な進路指導」肯定率68%以上[64.7%] イ・就職希望者・進学希望者の進路決定率85%以上維持[85.7%]	年間登校率92.2% (○) 休学者等を除く 年間遅刻数のべ636人 (◎) キャンペーンとして時期を限定せず、生徒が登校する日は毎日教員が生徒を出迎えて挨拶と声掛けを行った (○) 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ」肯定率82.4% (△) 「進路や生き方について考える機会がある」肯定率94.3% (◎) 「勤労観・職業観を持つ系統的な進路指導」肯定率76.5% (○) 就職希望者・進学希望者の進路決定率100% (◎) 粘り強い進路指導により、100%を達成できた。

府立布施高等学校 定時制の課程

3 生徒支援と安全安心な学校づくり	(1) 生徒の個に応じた支援と、生徒が安心して通える学校づくり	(1)	(1)	
	ア 人権教育の推進(様々な人権課題への取組み)	ア・4年間(3年間)を意識した人権 HR を計画、実施し系統的な人権学習につなげる。 ・教職員を対象とした校内研修等の実施により、人権問題への理解を深める。	ア・生徒学校教育自己診断「人権意識が高まる」肯定率 85%以上維持 [90.7%] ・教職員人権研修の実施 2 回以上 [7 回] ・教職員学校教育自己診断「人権尊重に関する課題や指導方法について全教職員で話し合っている」肯定率 67%以上 [64.7%]	「人権意識が高まる」肯定率 89.1% (○) 教職員人権研修 4 回実施 (◎)
	イ 教育相談体制の充実と合理的配慮	イ・支援コーディネーターを中心に SC や SSW と連携し教育相談の充実を図る。 ・SC による支援についての研修を実施する。 ・高校生活支援カードやスクリーニングシートを活用し、生徒情報の共有に努め、必要に応じて個別の教育支援計画の作成を行う。 ・居場所づくりを通して、教員と人間関係が構築できる取り組みを推進する。	イ・SC による研修の実施(新規) ・生徒学校教育自己診断「先生に気軽に相談できる」肯定率 85%以上維持 [88.1%]	「人権尊重に関する課題や指導方法について全教職員で話し合っている」肯定率 64.7% (△) 今後、指導方法についての検討が必要。 「先生に気軽に相談できる」肯定率 88.7% (○)
	ウ 中退、不登校の減少	ウ・生徒の居場所づくりを推進し、不登校、中退を減少させる。 ・中高連携による不登校生徒への支援を行う。	ウ・中退者数 昨年度以下 [9 人] ・再履修(留年)者数 昨年度以下 [2 人] ・長欠者数 (30 日以上欠席) 昨年度以下 [29 人]	中退者数 6 人 (◎) 再履修(留年)者数 1 人 (○) 長欠者数 (30 日以上欠席) 18 人 (◎)
	(2) 安全安心な学校	(2)	(2)	
	ア 健康安全教育の推進(生徒および教職員の健康増進と安全確保)	ア・本校の特色やニーズに合う健康安全教育の実践を図る。 ・食物アレルギーへの対応について、校内研修等を通して教職員の意識の向上を図る。	ア・生徒保健委員会の開催 5 回以上 [10 回] ・食物アレルギー研修 1 回以上 [1 回]	生徒保健委員会 20 回 (◎) 食物アレルギー研修 1 回 (○) 食育については、文化祭の際に東大阪市の保健センターに共催を依頼して展示会を実施した。生徒保健発表会(1 月)で、代表生徒が発表にエントリーするなど、意欲が高まっている。
	イ 問題事象等への迅速で適切な対応	イ・学年が中心となり分掌が連携する体制を確立することにより、問題事象の防止に努めるとともに生徒の支援につなげる。 ・会議等で規律面における生徒の実態を共有し、生徒指導方針を確認する。	イ・年間の懲戒件数 0 [0 件] ・教職員学校教育自己診断「生徒指導の方針について共通理解(コンセンサス)が図られている」肯定率 80%以上維持 [82.4%]	年間の懲戒件数 0 件 (◎) 「生徒指導の方針について共通理解(コンセンサス)が図られている」肯定率 76.5% (△) 懲戒件数は 0 件であり、指導は行きわたっているが教員間のコンセンサスがより一層得られるように情報共有していく必要がある。
	ウ 災害に備えた危機管理体制	ウ・災害時の避難行動について理解できるよう、定時制の実態に即したリアルな避難訓練を実施するとともに、防災 HR により生徒の意識の向上を図る。 ・災害時の対応について、全日制教員との連携を推進する。 ・緊急時も含め、生徒や保護者、教職員との連絡体制を継続する。	ウ・防災 HR の実施 2 回以上 [2 回] ・緊急連絡網の保護者の登録者数 70%以上維持 [72%]	防災 HR の実施 2 回 (○) 緊急連絡網の保護者の登録者数 86.4% (◎) 保護者に登録への依頼を継続する。
	(3) 広報	(3)	(3)	
	ア 家庭、地域との連携推進と開かれた学校づくり	ア・HP や「学習支援連絡網」を活用し緊急性のある情報だけでなく、日々の学校の様子等を発信し、保護者への情報伝達を密に行う。 ・中高連絡委員会を中心に中学校への情報共有を行う。 ・「布施定だより」や各種便りの定期的な発行配布や HP の充実により、定時制の魅力の情報発信を行う。 ・保護者への授業公開を行い、保護者が来校する機会を増やす。	ア・ブログや HP 等の年間更新回数 (120 回以上) [155 回] ・学校説明会を 2 回実施 [2 回] ・中学校訪問 70 校以上 [92 校] ・「布施定だより」の発行年 6 回以上 [9 回] ・保護者参観を実施(新規)	220 回(准校長ブログ、SNS、「ぐんぐん(校内の畑の状況をお知らせするブログ)」の更新総数)今年度新たに SNS を開設し、日々の学校の様子を掲載している。フォロワー数は 72 名であり、増加に向けて検討を続ける。 学校説明会 2 回、個別の説明会 9 回 (◎) 中学校訪問のべ 28 校 (△)今年度より、教員の負担軽減のために生徒が在籍していない中学校には訪問せず、広報資料を郵送することとした。代替措置として准校長が中学校長会等で学校説明を行い(2 回実施)、中学校を所管する教育委員会事務局へ出向いて学校説明や情報交換を行うなど、新たな視点での広報活動に努めている。 「布施定だより」の発行 9 回 (○) 保護者参観のべ 13 人 (◎) 体育祭来校者 50 人、文化祭来校者 59 人 保護者学校教育自己診断アンケートにおいては、「参観や行事参加」の肯定率は 91.7% (昨年度 64.0%) と大きく向上した。今年度開設した SNS 等の広報活動が保護者の来校意欲や満足度につながったと思われる。

府立布施高等学校 定時制の課程

4 学校運営体制の改善と人材育成	(1) 教職員の学校運営への参画意識の醸成	(1)	(1)	
	ア 運営委員会を学校の核とした学校運営の確実な定着	ア・運営委員会が学校運営の中心となり校内の諸課題について検討や立案、調整の場とする。 ・職員会議などの場において、組織の位置づけについての周知を図り、組織的な運営・連携の重要性の認識を高める。	ア・教職員学校教育自己診断 「各分掌や各学年の連携」 肯定率 80 % 以上維持 [82.4%]	「各分掌や各学年の連携」 肯定率 82.4% (○)
	イ 分掌等会議の充実と組織間の連携を図った校務の効率化	イ・分掌等運営シートを活用し、各分掌や学年、委員会などの意見を組織間で迅速に情報共有を図り、効果的な会議の運営を図る。	イ・教職員学校教育自己診断 「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担」 肯定率 62%以上 [58.8%]	「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担」 肯定率 82.4% (◎)
	ウ ミドルリーダーの育成と教職経験年数の少ない教員の参画意識の醸成	ウ・首席と分掌長の調整会議を行い、学校運営への意見をまとめる体制をつくる。 ・座談会を継続し、教職員の意見を聴取し、学校運営に反映する。	ウ・教職員学校教育自己診断 「学校運営に教職員の意見が反映されている」 肯定率 60%以上 [47.1%]	「学校運営に教職員の意見が反映されている」 肯定率 94.1% (◎)
	エ 各種ハラスメントの防止に対する意識の啓発	エ・各種ハラスメントについて、日常的に注意喚起するとともに研修を行う。	エ・教職員学校教育自己診断 「相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動の実施」 肯定率 68 % 以上 [64.7%] (新規)	「相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動の実施」 肯定率 76.5% (○)
	(2) 学び続ける教員集団の形成	(2)	(2)	
	ア 教職経験年数の少ない教員を対象とした校内研修などによる人材育成	ア・教職経験年数の少ない教員対象の校内研修「若手教師塾」の内容を精選して実施する。 ・他校の研修などへの積極的な参加と研修内容を伝達する場を設定する。 ・首席を中心として経験年数の少ない教員を OJT を通じて組織的、継続的に指導し、相互の気づきにつなげる。	ア・「若手教師塾」の実施 (10 回以上) [12 回] ・職員会議等での伝達研修の年間回数 5 回以上 [7 回] ・教職員学校教育自己診断 「経験年数の少ない教員を学校全体で育成」 肯定率 55%以上 [41.2%]	「若手教師塾」(全教員が参加) の実施 12 回 (○) 職員会議等での伝達研修 4 回 (△) 「経験年数の少ない教員を学校全体で育成」 肯定率 64.7% (◎)
	イ 校内研修の計画的な実施	イ・企画会議、運営委員会などを通して研修の精選や学校のニーズに合う研修の計画を行う。	イ・教職員学校教育自己診断 「校内研修の計画的実施」 肯定率 73%以上 [70.6%]	「校内研修の計画的実施」 肯定率 64.7% (△)
	(3) 働き方改革に向けた取組み	(3)	(3)	
	ア 時間外勤務の削減	ア・全校一斉定時退庁日の確認、学校閉庁日の設定の意義などについて教職員の意識改革を進める。計画的に校務を遂行するとともに、教職員間の連携を図り、時間外勤務の削減に向けて取り組む。	ア・時間外勤務 (平均) 年間 150h 以内 [127.0h] (2 月末)	時間外勤務 (平均) 90.0 h (平均 11.3 h 11 月末実績) (○)
	イ 校内ネットワークを含めた ICT 活用の推進	イ・会議の開催を最小限にし、職務の効率化や機能の充実を図る。	イ・会議のペーパーレス化の促進 ・会議は 1 時間以内での実施	すべての会議で各自が端末を活用し、ペーパーレス化できている。(○) おおむね 1 時間以内で会議を実施できている。(○)